



VOL 32

2010年2月号

発行2010年1月27日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

## 雲取山原三角測点保護への裏話し

### 遠山元信

平成10年4月末、国土地理院関東地方測量部の益子さんと言う方から「雲取山の原三角測点の保護が決定しました」と、突然の電話連絡があった。関東地方測量部に行った際、雲取山の原三角測点標石の現状報告をして何故放置しておくのか、国土地理院本院の山岡光治氏にも、もし国土地理院が動かなければ我々登山者が集まり山麓まで下ろし、博物館に収容してもらおうとプレッシャーまで掛けておいたのである。

一般の三角点より大きいあの標石を片道10キロの道を下ろすのは不可能だ。そこで元日本山岳会会員で前秩父鉄道の社長であった柿原謙一氏にお願いし、雲取山荘の荷揚げヘリの帰り道に三峰神社のヘリポートまで無料で下ろして貰えば収容可能と考えていた。国土地理院が保護しなかったら、いつの日か行動に移していたら。

さらに平成9年1月に「都内の三角点」資料集を作成、その表紙に雲取山の原三角測点の写真を採用、写真解説の中に測量分野としてみれば重要文化財にも該当するような物を何故放置しておくのかと記載。それが関東地方測量部長の眼にとまり「即刻、保護せよ！」になったと、電話連絡してきた益子さんから聞くことができた。そして現地保護が決定し、工事も終了したので6月7日測量の日に雲取山山頂で説明碑の除幕式と雲取山荘で前夜祭をやるので、言い出しっぺとして御招待しますので参加して下さいという連絡であった。

その測量の前日、雲取山荘まで出向かなくてはならない。当日は午前中から天候が悪く小雨だった関係で、重い腰が上がらず昼になって仕方なく自宅を出発。最短距離の奥多摩の大ダワ林道経由で、雨が降る暗い道を山荘へと急いだ。到着後、雲取山荘の新井さんに国土地理院の方の所在を尋ねたところ外で騒いでいる人達だと言う。その騒ぎの中から井出さんと言う国土地理院の方を探し到着したことを伝えたと、大勢の皆さんの前に出されて「この方が今回の言い出しっぺの遠山さんです」と紹介された。そして名前も所属も判らない人達から呑めや喰えやの接待を受け、国土地理院は役所なのに派手にやるなと思ったら、その方々は東京、埼玉、山梨の測量設計業協会会員の人達で国土地理院の方は井出さん一人であった。後にその費用は測量設計業協会から出していたことが判明、説明碑設置の費用まで協会が負担していた。国土地理院から招待されたのではなく、測量設計業協会からパーティーにだけ招待され、雲取山荘の宿泊費は自前

と言う内容であった。

翌日午前、山頂に付いた時はすっかり準備が整い、紅白の幕まで張り工事に協力した雲取山荘の新井信太郎さんと工事を請け負った秩父の荒船洋さんに国土地理院から表彰状が授与され、言い出しっぺの私には何も無かった。この時の様子を日本山岳会の月報『山』(1999年1月号)に投稿、山頂では都内の測量会社が原三角測点標石の上でGPS測量をし、だれが持参したのか一升瓶の冷酒で乾杯した。これでやっと原三角測点標石が保護され、その嬉しさからか呑めない冷酒を呑み過ぎてしまい、あの斜めで細い大ダワ林道の道をフラフラしながら下ってきた。



## 連載 ゆにーく 標識&標石 14 えっ！どこの山岳家？



世田谷区内の道路調査をしていた時出会った山岳家の表札です。どんな山岳家がすんでいるの？

と思いきや、よく見るとお寺の本堂のようです。場所は東急田園都市線の桜新町から世田谷通りを東に向かった途中、古い立派な本堂で世田谷20番観世音霊場の標柱があり、本堂の裏は墓地で南側に国道246まで続いている大きなお寺でした。正式名は曹洞宗・善養院 家岳山(かがくさん) 古い表札は右から読むものなのが常識なんですが、いまだに右側から表示されているものが多いのが気になりますね。

(近藤)

## 行ってきました

### 多摩川分水界を歩く

今井 秀正

12月23日(水曜日天皇誕生日)、前回の青梅丘陵に引き続き、今回は日が短い時期でもあり、いつでもエスケープできる条件から高尾山周辺の相模川、境川の分水界を歩いた。中央線高尾駅北口8時集合で、今回は北野、井上夫妻、今井の4名の小バナーであった。バスを利用して小仏峠、城山、大垂水峠、大洞山、コンピラ山、中沢山、泰光寺山、草戸山、四辻、高尾山口のコースである。紅葉が終わって冬を迎えたこのあたりは比較的山は明るく、幸い快晴で風も弱く気持ちのいい冬晴れハイキングが出来た。

バス終点を8時35分に歩き始め、小仏峠(548m)から城山4等三角点(670.3m)は今日最初のピークである。頂上広場の陽が当たるところは霜解けでドロドロではあったが、都心の風景は勿論、遠く筑波山を見ることが出来た。次の目標の大垂水峠へ向けて下り始めたのだが、どうもコースの雰囲気が違うな...と思っていたところ、トップの北野リーダーが路の間違いに気づき、急遽城山直下まで登り返すことになってしまった。地理クラブを名乗っているとはいえ、あまり意識をせずに歩き始めたのは少々お恥ずかしい次第である。東海自然歩道の大きな看板がある相模湖方面へ下ってしまったことになる。15分程の暇であった。大垂水峠で国道20号を越え、南高尾山稜へ移り、最初のピーク大洞山(536m)へ。頂上広場は老若男女ではなく、われわれも含めて「老老」男女20人ほど。最近の特にハイキングコースのいつもの風景、言葉はない。次のコンピラ山へ向かうゆるい登り路左脇に積もる落ち葉のあちこちに白い丸いものが点在しているのに気づいた。よく見ると霜柱ならぬ霜のリングではないか。土から直接の霜は柱になるが、落ち葉の中からの霜は長く伸びる間に丸い形になったのだらう。ティッシュペーパーが投げ捨てられている印象ではあったが、霜でよかった。コンピラ山(514.7m)で昼食の後、中沢山(494m)、西山峠を経て泰光寺山へ。地図にはない3等三角点があり、475mとなっている。標石は南北全く逆向きで、よく理解できないものであった。引き続き三沢峠、町田市最高峰とされる草戸山(364m)へ、城山湖が眼下に広がっている。ここから真北に進路を変え、いやになるほどの小さいアップダウン約1時間を経て四辻から左折し、高尾山口へ向かった。高尾山口駅手前の甲州街道西側の歩道の四角いマンホール内には(191.3m)の水準点があった。駅到着は15時45分であった。

今回の分水界は小仏峠から大垂水峠を越え、泰光寺山と草戸山のほぼ中間点の標高420m地点までは相模川との分水界。ここから草戸山までは多摩川境川の分水界に変わり、草戸山から北上した稜線は分水界ではないことになる。正味約6時間の歩行は程よい疲れで、案外満足できるものであった。帰路高尾駅で下車し、寄り道反省会はいつものことである。お疲れ様でした。以上

## 行きましよう 古代通信技術の再現(予備実験)

平成22年2月27日(土)小田急・片瀬江ノ島駅 午前九時集合 江ノ島・展望灯台を中心に海岸沿いに距離を変えて発煙・太陽光反射・旗振りなどの方法を実験し、山岳通信の可能性を検証します。地図 二万五千[江ノ島]詳細は次回例会で打合せします 担当 近藤

## 行きましよう 読図研修

### <その1> 立川断層沿いを歩く

平成22年3月17日(水)立川駅東改札口前 午前九時集合 立川駅->曙町二丁目->高松町三丁目->モノレール高松駅->国語研究所->砂川町一丁目->阿豆佐味大神社->金比羅橋->上砂川小学校->イオンモールむさし村山ミュー->武蔵村山市三ツ藤二丁目->三ツ藤三丁目->三ツ木三丁目->瑞穂第一小学校->狭山池->笹仁田峠まで歩くかどうか現

地にて判断->岩蔵温泉

### <その2> 名栗断層沿いを歩く

平成22年4月21日(水) 東青梅駅発9時20分頃発西武バス。青梅市岩蔵温泉バス停前 9時40分集合

岩蔵温泉->富岡二丁目->上畑->下直竹->川崎->山王峠->埼玉県飯能市原市場->妻沢->天神峠->仁田山峠->神出 帰路はバスで飯能へ 地図 二万五千[立川] [青梅] 担当 遠山元信 その1、その2とも参加希望者は遠山まで連絡ください。048-771-0018 mt3@nifty.com 注) 前回例会時に発表した2/17(水)は中止いたします

## 2009年・会計報告

下記のとおり報告いたします

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越	39,654	通信費(切手・宅配)	22,045
会費収入(2008年33名前年2名)	35,000	事務用品(インク・用紙)	7,552
		2009年繰越	45,057
	74,654		74,654

2010/1/13 会計担当 高橋

2010年の会費を徴収いたします。例会に出席できない方は下記口座に振込願います。年会費1,000-

記号10130 番号12841191(カハシ トロ)

## 例会の議事録 1月定例会

2010年1月13日(水) 19:00~20:10 於JAC集会室B

出席者16名(北野、平野、近藤、川村、寺田(正)、寺田(美)、遠山、高橋、羽鳥、大西、長谷川、田中、関、森、山下(新規入会)、今井(順不同)

内容: 12月23日(水:祭日)多摩川分水界踏査報告。今回はJR高尾駅集合、小仏峠から城山、大垂水峠、南高尾山稜、草戸山から高尾山口までの相模川と境川の分水界を歩いた。小バナーは北野、井上(希)、井上(千)、今井の4名。詳細はAGCレポートに投稿済み。(今井) 2009年AGC会計報告、承認。報告書は別紙。(高橋) 国土地理院との登山道調査協力の件につき、1月14日に打ち合わせが行われる。具体化するためには検討しなければならない事項が多いとは言え、一歩進むことになる。(北野) 中断している読図山行を再開する。新たに立川断層を踏査する。日程は2月17日(水)、3月17日(水)。詳細は遠山会員まで。(遠山) 古代の通信手段(のろし、太陽光反射、音等)を実験してみたい。2/27に予備実験を行う。次回までに提案等を含め詳細を提示する(近藤) 次回の多摩川分水界踏査は高水三山から棒の折れ方面とし、3月21日(日)を予定する。奮って参加願いたい。(北野) 科学委員会で「冬山を楽しくする科学」として、「低体温症の生理学」ほかの講演会を行う。3月22日13時30分から飯田橋仕事センターで行う。詳細は機関誌「山」を参照。(平野) 終了後「鯨の家」で新年会(15名)。以上(記録:今井)

## お知らせ

### 次回の例会

日時 2010年2月10日(水) 18:30から

於:山岳会 ルーム

テーマ: 山行報告、ほか

ご注意: 次回から第二水曜日となります。

AGCレポート vol-32 2010年1月27日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com